

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597800022		
法人名	社会福祉法人 ひつつの会		
事業所名	グループホーム徳佐あいおい苑		
所在地	山口県山口市阿東徳佐中987-5		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町受理日	平成23年2月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中にたずんでいるホームは四季の移り変わりを五感で楽しめるとともに、入居者のライフスタイルを維持する為に最適な条件を備えている。入居者と一緒に菜園活動を行なう事で馴染みの生活の支援を行っている。一人ひとりの個性を生かした居場所作り、出場所作りを行なっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が記録に専念できるように、毎日、記録の時間を16時から1時間確保されています。日常の関わりの中での利用者の言葉や行動、表情、しぐさなどを詳細に記録しておられ、利用者の状態の変化に気づかれたり、思いや意向の把握をされたり、ケアの振り返りとされ、個別支援の充実に役立てておられます。利用者一人ひとりの予測できる急変や事故発生時に備えて、その対応を職員誰もができるようにケアカンファレンスの度に2名の看護師を中心に、応急手当や初期対応の学習や訓練を実施されています。3名の食事担当の職員を確保しておられ、事業所で三食とも食事づくりをされています。郷土料理を取り入れた献立や、季節や地域を利用者が感じられるように工夫され、「昔よう食べよったいね」「なつかしい味じゃねえ」と会話を弾ませ、食事が楽しめるよう支援しておられます。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>『恵まれた自然の中で四季のうつろいを肌で感じ、馴染みのある生活を大切にします。』を次魚所理念としており、周辺の散歩や菜園活動を主体に支援し従来の延線の生活をして頂けるように日々努力実践している。</p>	<p>事業所独自の理念に加え、「地域行事への参加、地域クラブの方との交流を通して馴染みの人々との密接な関係を作れるように支援する」という具体的運営方法を掲げ目的としている。スタッフルームに掲示するとともに月1回のミーティングで確認し、共有して日々のケアで実践している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地元自治会に加入している。近隣の方から季節ごとの野菜の差し入れがあり、その都度交流が持てている。徳佐地域としては、中学校の職場体験の受け入れや婦人会活動、地域文化行事に参加している。</p>	<p>盆踊り大会の見学、朝市での買い物、文化祭の見学(職員は踊りで参加)、地域の桑山子祭には作品を出品、生雲どろんこビーチバレー大会には職員が出場し利用者が応援するなど、地元の行事や地域との交流に積極的に取り組んでいる。法人内施設や地域の他施設との食事会での交流、生雲フェスタ交流会、民謡クラブとの交流会など、日常的に交流している。近所から野菜や米の差し入れがあり、事業所が気軽に立ち寄れる場となっている。自治会に加入している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>来訪者に入居者と同じ空間の中で共有した時間を過ごしていただくなどのふれあいを通じて、認知症の方々の理解と支援の方法を見て貰っている。認知症の理解に関しては地域の人々に発信することは出来ていない。地域に発信できるように自己研鑽している段階。</p>	/	/
4	(3)	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が自己評価及び外部評価の意義を理解している。現在の施設のあり方や自らの姿勢を振り返る機会としてとらえ、ミーティング等を行いながら評価内容の改善実施への努力を行っている。</p>	<p>評価の意義を理解し、全職員に自己評価書を配布して記入してもらい、ミーティングで検討したうえで管理者がまとめている。評価することがケアの振り返りの機会となり、改善に活かせるように取り組んでいる。自立した生活のための「手すりをつける」という提案がありこの意見を取り上げ具体的な改善に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、地域包括支援センター職員、地域有識者、自治会長、近隣の方、阿東地区のグループホーム職員等の参加を頂き、2ヶ月に1回、行っている。会議では現状報告や季節行事等、実践した内容を説明し、参加者からは意見やいろんな知恵を頂戴している。	定期的開催し、事業所の状況や行事等の報告をし、意見交換をしている。食事やおやつを試食会も開いている。「季節毎に花が咲く低木を植えたらどうか」「お茶の木があるので茶つみをしたら」など四季が感じられる庭園づくりの意見が出され、利用者と一緒に植えるなど、出された意見を活かすように取り組んでいる。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも事あるごとに報告相談し、助言を受けている。2ヶ月に1回開催される、山口市介護サービス提供事業者連絡協議会に参加したり、山口市介護相談員の訪問などを受け、自己研鑽の機会としている。	山口市介護サービス提供事業所連絡協議会に参加し、市からの情報を得たり、市の担当者とは連絡を取っている。市の介護相談員も定期的に訪問している。	
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止に関する情報を収集して、ホームない研修を行い、現状を分析し日々のケアを見直す努力をしている。日中は施設の玄関ドアやデッキ側サッシ戸は常に開放しており、閉塞感のない環境づくりを行っている。	身体拘束に関する指針があり、委員会を設置している。身体拘束について正しく理解するために勉強会を行い、全職員で言葉の拘束も含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関やリビングの戸などに鍵はかけておらず、利用者の自由な暮らしを支援している。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の情報収集に努めると共に職員会議の場で情報提供を行い、日々のケアが虐待に通じるのではないかとという視点で各々のケアを見直している。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内・外研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度について、知識を習得し、適宜適切に対応できるように努めている。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行っており、理解・納得をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。玄関にはご意見箱を設置している。家族の方の訪問の際は生活状況を報告すると共に意見を伺い、運営に反映するように努めている。	電話や面会時、運営推進会議などで、家族の意見や要望を聞いている。要望があった場合は、その都度できることをすぐに運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、重要事項説明書に明記して家族に周知している。これまで、利用者が重度化しても見てほしいという要望が多くあり、その都度、施設での限界や今後のケアなど、医師等関係者と相談して伝えている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回(夏・秋)実施する職員との戸別面談で、本人の意見や提案を聞き運営に反映させている。	定期的に行っているミーティングや、管理者による個別面接時に意見や提案を聞いている。職員は日常的なケアの中での気づきやアイデアを積極的に提案している。出された意見は代表者に報告し、運営に反映させている。リスク管理面や利用者の自立に向けての意見や提案があり、ほとんどが具体的に実現できるよう取り組んでいる。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートによりキャリアアップ出来る環境を整備中である。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践力を人事考課シートを確認することで把握している。また、研修の年間計画を策定し、外部研修・内部研修・職員相互研修・専門研修を実施している。	外部研修は勤務の一環として段階に応じて参加の機会を提供している。受講者は復命報告をし、資料を閲覧して共有している。内部研修は月1回ミーティングの中でテーマを決めて実施している。働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会で認知症関係のネットワークづくりを行っている。山口市介護サービス提供事業者連絡協議会や周南市均衡の認知症ケアスタッフ合同研修会等に積極的に参加し、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人や家族、医師や医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員等から聞き取りを行うことで、利用者の生活歴、思いを理解し、サービス導入時の不安が1つでも買い和で切るような関係づくりをおこなっている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や入居時にゆっくり話し合う機会を設け安心して利用していただけるよう努めている。また、入居後も利用者の現状報告を小まめに行うことで安心感を持ってもらえるように努めている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント段階で優先順位を、本人サイド、家族サイド、職員サイドで見極める努力をし、落ち着いた環境を整えている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を『人生の先輩』である事を念頭におき、日々の生活を共にし、耳を傾ける事に努めよい関係づくりを行うようにしている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活情報を家族の方に伝えると共に、家族の心情を考えながら、家族としての関わり方が出来るように職員はパイプ役となっている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのライフスタイルの延長を念頭におき、利用者の個々の思いを汲み取り、馴染みの場所や人物と交流が図れるよう地域行事参加やふるさと巡りを行っている。	利用者がこれまで住んでいた近所の人々に本人が手紙を書き、訪問して手渡すという「ふるさとめぐり」や「ふるさと交流」として朝市に参加している。馴染みの美容院に出かけたり、馴染みの美容師さんが訪問してくれたり(出張美容室)している。利用者にとって馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者や茶道市が語らえる環境を整備したり、同じ趣味の方々が楽しめる場所づくりを行っている。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の方から様子を伺い、関係を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、何気ない会話や行動、表情から一人ひとりの暮らしに対する意向の把握に努めている。本人の意向確認が難しい場合は、日常生活を観察し、職員間で話し合いを持ち、出来る限り本人の思いを汲み取るよう努めている。	日常の関わりの中での利用者の言葉や行動などから思いの把握に努め、介護支援経過シートに記録している。「記録の時間」として16時から1時間をとり、職員がケア記録に専念できるようにし、利用者の言葉、行動、表情、しぐさなどを詳細に記録し、振り返り、本人の思いや意向の把握に努めている。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親族の方との交流を通じて、入居者のこれまでの暮らし方の把握に努めている。日々のかかわりの中で利用者本人からも話を聞き、把握するように努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の得意で楽しめる事、出来ている事、出来るようになった事、出来ない事、出来なくなった事を見極めた関わりを行っている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々に担当を決めている。担当のモニタリングを元に、主治医や本人、家族の意見を考慮してケアカンファレンスを行い、一人ひとりの状況に応じた介護計画を作成し、援助を行っている。	把握している本人の思いや家族の意向、関係者の意見、主治医の意見書、担当者のアセスメントを参考にして、月1回のカンファレンスで話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。月1回ケアマネモニタリングを実施し、3ヶ月に1回見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、身体チェック表により利用者の必要を把握し、ケアカンファレンスを行い職員間での情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診の介助、理美容院の援助、戸別外出を行っている。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の婦人会、民謡サークルや中学生職場体験の場としての交流を通して生活を楽しんでいる。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の体調確認を常に行い、適宜適切な援助を行っている。協力医療機関と密接な関係を保っており、体調の変化に応じて相談協議を行っている。	2ヶ所の協力医療機関をかかりつけ医としており、2週間に1度の往診や受診の支援をしている。その他の医療機関(専門医等)への受診についても職員が同行し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師、非常勤看護師が2名おり、何時でも相談できる体制になっている。介護記録や関わりの中での異常の早期報告により適切な受診に繋げている。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院の際、主治医や医療連携室と情報交換を行いながら、入居者の状況把握をしている。入院中の経過についても情報を得て、早期退院が出来るように努めている。退院時には生活リハビリの指導を受け、退院後も、受診し生活リハビリの経過観察と指導を受けている。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	人生の最後まで関わることを基本としている。家族には施設の基本方針をお伝えしている。それぞれの家族の意向を伺っているが、必要な段階に応じて本人、家族、医師、職員間で話し合いを行なっている。	指針があり、契約時には家族に事業所の方針を伝え同意を得ている。実際に重度化した場合、重度化と思える症状が出る都度、対応できるかどうかを医師、家族、関係者等で話し合い、職員間で共有して、移設も含めて支援している。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの身体状況の把握に努め、ヒヤリはっとを活用して対策、対応を話し合っ事故防止に取り組んでいる。職員の全員が応急手当や初期対応が出来るようにホーム内外の研修を受けている。	ヒヤリはっと報告書に記録し、原因や対応策を話し合い、介護計画に反映して一人ひとりの事故防止に努めている。個々の予測できる急変を想定し、職員全員が応急手当ができるように、ケアカンファレンスの度に2名の看護師を中心に学習や訓練を実施している。全職員が救命講習を受講している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を定期的に行っている。訓練内容が実施記録として、運営推進会議で報告し、万が一災害が発生した場合は協力していただけ様お願いしている。	消防署の協力を得て年2回(内1回は夜間を想定)利用者も参加して実施している。事業所の両隣に声をかけて参加、協力を呼びかけている。運営推進会議でも災害時の協力体制について話し合っている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の意思や大切にしているものを尊重するような声かけや援助を行っている。また、個人情報の取り扱いも慎重に行っている。	職員は利用者を人生の先輩として尊重している。入浴時、排泄時の声かけや対応には誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。気になる言葉かけや対応に気づいたときは職員同士で注意し合っている。個人記録はロッカーに保管している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示的または威圧的な声かけや誘導ではなく、『どうされますか』と、思いを聞いたり、選択できる声かけを努めている。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活はタイムテーブルに沿う型で運営しているが、その日、その時の本人のペースを尊重している。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るように、季節ごとにタンスの中の衣類を入れ替え、その中から自分で選べる方は好きな服を選んで頂いている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた野菜のした処理やテーブルの準備、下膳、片付けなどを生活活動の一貫として一緒に行なっている。メニューに昔ながらの地元料理を取り入れて馴染みのある味を楽しんでいただいている。またBGMを流しながらゆったりとした雰囲気ですべてを行っている。	3名の食事担当職員を確保し、事業所で三食とも食事を作っている。献立や味付けなど、利用者の感想や意見を聞きながら行っており、利用者も野菜の下ごしらえや食事の準備、後片づけなどできる事を職員と一緒にし、同じ食事を囲んで会話をしながら食事が楽しめるように支援している。野菜をふんだんに使った地元料理が食卓にならぶよう心がけており、利用者は食事を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日の摂取カロリーに即した量の盛り付けをしている。一人ひとりの摂取量、水分摂取量を記録し、栄養不足、水分不足にならないように支援している。</p>		
43		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、声かけ見守りで入居者一人ひとりに合わせた口腔ケア（義歯の保清も含む）を行っている。</p>		
44	(19)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>生活記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の適宜適切な声かけ誘導を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。</p>	
45		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>生活記録から、一人ひとりの排便のパターンを把握し、水分摂取量や運動を取り入れる等、便秘の対策を行っている。</p>		
46	(20)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者の重度化や勤務体制上、午後の時間帯にタイムテーブルに沿った型で入浴をして頂いている。曜日や湯加減、洗身等、本人の希望を伺いながら援助するように努めている。</p>	<p>日曜日以外は毎日午後入浴できるように、一人ひとりに合わせた声かけをし、入浴を楽しめるよう支援している。入居時には入浴困難な利用者もいたが、アイデアとケアの工夫で現在は入浴が嫌いな利用者も週に2回は入浴している。</p>	
47		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を尊重し、休息したいときに休息できる環境を整えている。また、個々の型が安心し、落ち着ける照明にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量について介護記録の裏表紙に綴じ、いつでも確認できるようにしている。当日の記録係が服薬管理を行なっている。吹く訳語の状態を観察し、異常時は協力医療機関の医師に報告を行っている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を把握し『出場所作り』を支援している。一人ひとりの楽しめる事を把握し、季節感のある工作活動や馴染みのある民謡を歌体操を兼ねて取り入れている。	タオル体操、編み物(編む人、ほどく人、糸を巻く人)、お土産づくり、手紙を書く人、ぬり絵、俳句、押し花アート、テレビ・ビデオ視聴、洗濯物を干したり、たたんだり、野菜づくり、収穫、野菜の下ごしらえなど、楽しみごとや活躍できる場面をたくさん作り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう、きめ細かな支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が高齢化、重度化している現状で、可能な限り、機会を捉え外出するようにしている。	散歩、朝市、ドライブなど、できるだけ戸外に出かけられるように支援している。	
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の状況により施設で管理している。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを書く手伝いを行い発送している。電話は職員が取りついであとで会話を楽しんでいたいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから履きだしの型でデッキがあるため、容易に外の自然の変化を感じ取れ、季節感を十分に味わう事が出来ている。工作も季節感を取り入れた作品を作り居心地よく過ごせるように努めている。	共用の生活空間は広く、明るく、清潔感があり、ホールは、それぞれが好きなことができるよう、ソファや机、棚などを置き、穏やかに過ごせるように工夫している。大きなガラスの窓からは外の景色が眺められ、ホールに続いているウッドデッキに出ると四季の移り変わりが肌で感じられる。台所から調理の音や匂いがし、生活感もある。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキに木製のベンチやホールの各所にソファを置いているので、気の合う入居者同士が談話したり好きな活動をされている。廊下にもソファを置き、一人静かに過ごせるような居場所作りも行っている。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は使い慣れたベッドやタンス、洋服などを居室に持参されており、ゆっくり自分のペースで過ごされている。	居室には使い慣れたベッドやタンス、鏡台や好みの生活用品が持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫している。船平山の麓に住んでいたことのある利用者には、その山がいつも眺める事ができる居室に入ってもらうなど、その人に合った居室づくりになるよう支援している。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者は居室前表札や『便所』や『テレビの部屋はこちらです』等、矢印を含め利用者が理解しやすいように表示している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 徳佐あいおい苑

作成日：平成 23年 2月 16日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	入居者の方を保護する傾向にあるので、もう少し地域交流を広げるように助言を頂いた。	地域交流を広げる。	地域の方が訪問し易いガーデン作りをする。 花の開花に合わせてガーデン喫茶を行う。 屋外に交流の場を設ける事により、気楽に来て頂ける雰囲気作りをする。 地域行事に出かけて行く。	12ヶ月
2	35	ヒヤリハットの検討をミーティングで行っていた。	ヒヤリハットの検討会議を充実させる。	ヒヤリハット検討会議の時間を明確に決め会議を開催する。	実施
3	24 25	各項目で良い評価を頂いた事を継続する。	その人らしい暮らしを継続する。	日常の関わりの中で入居者の言動、表情、しぐさなどを記録に残し、振り返り、個々の方の思いを把握することを継続する。 郷土料理を取り入れた献立、調理方法を継続する。	実施
4	14 15	日常生活のマナー傾向の防止	職員の質の向上を図る。	他の事業所との人事交流(体験学習)を行う。 研修・勉強会等に参加して自己研鑽する。	12ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。